

富士見市立本郷中学校だより

学校教育目標



「夢と感動と思いやりがあふれ、誰もが成長を実感できる学校」

第4号

よく考え、学び、求める生徒
豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
心身を鍛え、勤労と体験を重んじる生徒

希望こそ心のワクチン

校長 上堀 護



星野市長様と中谷奏空さん
(市ホームページより)

7月に入って豪雨災害で犠牲になった方々へ哀悼の意を表しますとともに、被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。広島在住の私の親戚や鹿児島県内の知己に連絡をとったところ、皆無事を確認しました。皆様のお知り合いはいかがでしょうか。

さて、今月6日に開催された東京五輪聖火リレーで、今年の3月に本校を卒業した中谷奏空さんがランナーを務めました。その日の朝、学校朝会の講話でこのように語りかけました。「コロナ禍でオリンピックが開かれることに対して、世の中では賛否両論ありますが、日々ひたむきな努力を重ねている選手には何の責任も罪もないと思います。4年に一度の大会に向けて競技人生を懸けているアスリートの皆さんは、本当に純粋な気持ちで頑張っているのです。そういう人たちには心から尊敬するし、応援したいと私は思っています」と。

新型コロナウイルス感染症に感染することを「危機」ととらえ、それを防ぐことが「危機管理」であることはもちろんです。しかし、その日の午後、中谷さんの姿と沿道で応援する大勢の人々を見た帰りの道すがら、本当の危機とはなんだろうと考えました。

本当の危機とは、人と人との結びつきが薄れることなのではないか？自分のことだけでいっぱいいっぱいになり、人のことを思いやる余裕がなくなることなんじゃないか、と。

こんなご時世になってからというもの、相手の立場を尊重したり喜び合ったりすることが減り、感情的に相手を責めたり傷つけたりすることが増えたような気がします。無邪気に振る舞う子どもの心にも、その影響が忍び寄っているような気がしてなりません。

不登校児童生徒数や児童虐待件数など、何かしらの影響も危惧されるどころです。災害後の子どもの心的ストレスは大人が想像する以上に深刻なことは、東日本大震災などの災害の事例から分かっています。このような時期に私たち大人がしてやれることは、子どもの心に寄り添いながら自己決定の場を設けること、努力を認めてやること、人と人との強く結びつくことではないでしょうか。

「希望」こそが心のワクチンなのだと思います。

3年生は今月25日から修学旅行を予定しています。9月には体育祭、10月合唱コンクール、11月に開校50周年記念式典を開きます。感染リスクはつきまといますが、万全の予防策を講じつつ、人と人との絆を切らないような教育活動を展開します。また、1年生「いじめ防止教室」や生徒用タブレット端末の夏休み中の持ち帰りなど、人権意識の醸成やICTを活用した学習保障も行っています。

先日、50周年記念誌に掲載予定の卒業生の座談会に星野市長が来校されました。卒業生や地域の皆様の活躍される姿は、在校生にとって心の支えであり、希望でもあります。次代を担う若者たちのために、今後ともどうぞご支援賜りますようお願い申し上げます。